

追悼

西岡

Tetsuo Nishioka

鐵夫先生



自宅で写真ネガを整理中の西岡先生（1990年）

## 追悼 「ああ、テッペイしゃん」 今江正知

テッペイしゃんこと西岡鐵夫君は63年来の親友であった。去年、モキッチャンこと中島最吉君(元熊大教授、崇城大副学長)が亡くなり、寂しい思いをしていたが、相次いで2人のかげがえのない友を失い、言葉に言い尽くせない。

西岡、中島の両君とは昭和23年、旧制五高の生徒として出会った。私は前年の入学だから、1年先輩の同級生だった。1年先輩という関係は、何年たっても失われることはなく今まで続くが、本当に悪い先輩を持ってテッペイしゃんには迷惑だったかもしれない。

ところで「鐵夫」なのになぜテッペイと私が呼ぶのか。そしてテッペイしゃんが素直に「はい」というのか。五高の入寮の時だった。

当時、寮長の飯尾憲士が新人の点呼をした際、間違えて「西岡テッペイ」と言ってしまった。「よく似た名前の同級生がいるなあ」と思って聞き流していたところ、「宮崎中学の西岡テッペイ」としかかれて初めて自分のことと分かった。以来、同級生に「テッペイ」が定着した。

昭和23年は五高最後の入学生。学制改革に伴って五高は熊本大学となり、翌年、私たちは1回生として理学部生物学科に入った。小さいころから花を育てるのが好きだったが、動物の方へ進み、小山準二先生の元で動物の分類をやった。私は植物へ進んだが、同じ生物科ということでいつも一緒だった。

昭和28年、卒業と同時に彼は熊本信愛女学院の教師となった。恩師の小山先生のひと言で決まったようだが、信愛ではコーラス部をつくって生徒たちとよく歌っていた。翌29年、熊本博物館の開館に伴い、その職員となった。博物館の開館が遅れたためのいわばつなぎの教師生活だったが、たった1年間とはいえとても楽しかったようだ。

さて、開館したばかりの博物館を仕上げていく作業は大変だったに違いない。博物館に対する理解がほとんどない時代だから笑い話のようなことがたくさんあった。「博物館の仕事で評価の高い順番は①チョウの採集などにでかける②事務室で書類を書いている③事務室で碁を打っている—3つのうちどれだ」と聞かれたことがある。答えは②③①。採点の基準は②は仕事をしているから十。③は仕事をしていないのでゼロ。①は自分の趣味をしているから一だというのである。また、「熊本市立なのに、なぜ阿蘇や天草なのか」といった雰囲気の中で、自分流を貫いて、博物館の基礎を作ってきた。

博物館は熊本城の本丸でスタートし、勸業館に移り、昭和53年に現在地に移転した。現博物館はテッペイしゃんのこだわりそのものといえるかもしれない。蒸気機関車、プラネタリウム、五家荘の原生林を再現したジオラマ…。特にジオラマは当時珍しく、現地ですなを切り倒し、コケから滴る水も再現させた。とはいえ30年以上がたち、リニューアルの話が進んでいると聞く。テッペイしゃんをはじめ博物館にかかわってきた多くの先輩の思いを大切にリニューアルをして欲しいと願わずにいられない。

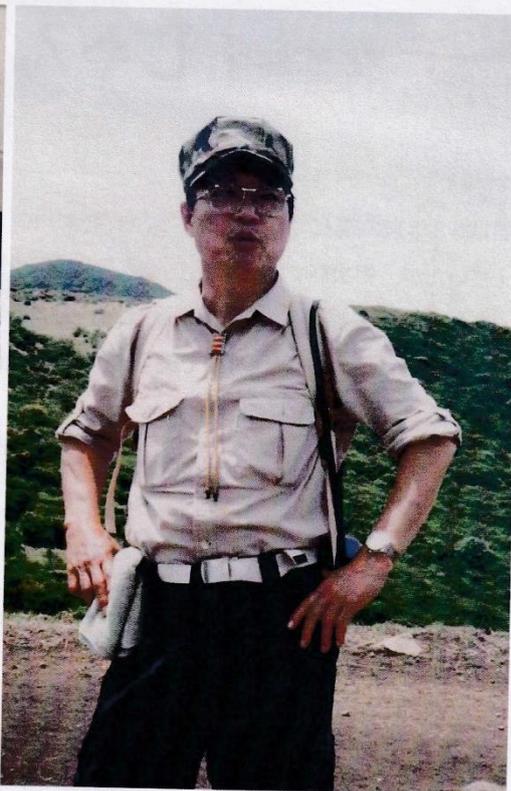
私は今の時代、博物学を復活させねばならないと思っている。森羅万象に関心を持ち、その一つ一つを自分の目、耳、鼻、手で実際に確かめるという博物学の基本に立ち返る必要がある。いろんなことが活字や映像となり、情報として出まわり、実際にそのものを見なくても見たような気分になれる時代だからこそ、博物学が必要なのだ。

テッペイしゃんは博物学を誠心誠意実行した人である。専門の動物はもちろん、植物や天体など、その関心の幅は広く、知識も深かった。実際に自分の目で見て触って確かめた知識だった。そしてそれを多くの人に伝えようとした。動物、植物、天文など幅広い愛好会の育成に努めてきた。博物館の学芸員を天職とし、あらゆる場面でその思いを徹底して貫いてきたテッペイしゃん。まさに現代の博物学の実践人といえる。これから彼の知識、経験が本当の意味で生かされる時代だけに、早逝が残念でならない。

# 西岡 鐵夫 (にしおか てつお)

昭和5年(1930年)10月10日生  
 本籍 宮崎県宮崎市橘通西1丁目4-5  
 住所 〒862-0924

熊本県熊本市帯山4丁目4番13号  
 ☎096(384)32663



九重・星生山山頂で(1986年6月)



五高時代(1949年ごろ)



阿蘇の火山博物館で昭和天皇を案内する(1985年5月)

## 学歴・職歴

- 昭和18年3月 宮崎市立第一小学校(国民学校) 6学年卒業  
 4月 宮崎県立宮崎中学校第1学年入学  
 20年3月 熊本陸軍幼年学校(49期)第1学年入学  
 9月 宮崎県立宮崎中学校第3学年に復帰(終戦による)  
 23年3月 同校第5学年卒業  
 4月 第五高等学校理科第1学年入学  
 24年3月 同校理科第1学年終了(学制改革による)  
 9月 熊本大学理学部第1学年入学(学制改革による)  
 28年3月 同大学理学部生物科第4学年卒業  
 4月 熊本信愛女学院勤務  
 29年4月 熊本市立熊本博物館勤務  
 33年8月 同 学芸員  
 45年10月 同 副館長  
 61年4月 同 館長  
 62年4月 熊本市教育委員会事務局次長(教育次長)  
 平成元年4月 熊本市企画広報部付審議員(文化行政担当)  
 2年4月 熊本市立熊本博物館首席学芸員(局長級)  
 2年11月 同 定年退職

## 各種経歴

- 大学講師及び官公庁関係の委員  
 熊本大学教養部講師(非常勤)  
 熊本大学文学部講師(非常勤)  
 熊本県自然環境保全審議会委員  
 熊本県鳥獣保護センター運営協議会委員  
 九州電気通信局利用者代表会議委員  
 熊本電気通信部お客様代表者委員会委員長  
 くまもと緑の財団運営委員会委員  
 熊本県自然保護関係団体協議会会長  
 同 顧問
- 昭和53年～平成9年  
 53年～平成18年  
 53年～平成11年  
 56年～平成16年  
 56年～60年  
 56年～60年  
 平成3年～現在  
 4年～10年  
 11年～現在



(写真・左) 30キロを超える荷物をしょって坂道を登る西岡さん  
(阿蘇外輪一周調査・1964年5月)

(写真・下) 小山先生(中央)と熊本大学の学友らと(前列右から2人目が西岡さん)



- |                        |           |
|------------------------|-----------|
| 熊本商科大学講師(非常勤)          | 5年～7年     |
| 九州東海大学講師(非常勤)          | 6年～14年    |
| 熊本県環境センター環境教育指導者       | 7年～現在     |
| 立野ダム環境検討委員会委員          | 7年～現在     |
| 熊本県環境影響評価審査会委員         | 8年～17年    |
| 熊本博物館協議会委員副委員長         | 8年～現在     |
| 熊本県希少野生動物植物検討委員会副会長    | 8年～18年    |
| 熊本県環境審議会委員             | 9年～14年    |
| 熊本県野生鳥獣保護管理検討委員会会長     | 10年～現在    |
| 九州新幹線氷川橋りょう鳥類調査検討委員会会長 | 12年～現在    |
| 熊本県松くい虫被害対策推進委員会委員     | 12年～現在    |
| 崇城大学芸術学部講師(非常勤)        | 13年～現在    |
| 緑川流域会議委員               | 14年～現在    |
| 阿蘇小国郷鳥類検討委員会会長         | 14年～16年   |
| 阿蘇小国郷環境情報協議会会長         | 16年～現在    |
| 熊本県指定管理者選定委員会委員        | 16年～現在    |
| 日田・鹿本線環境影響協議会会長        | 16年～現在    |
| 研究団体 その他の役員            |           |
| 熊本記念植物採集会幹事            | 昭和37年～42年 |
| 同 理事・顧問                | 43年～現在    |
| 肥後朝顔涼花会幹事              | 37年～60年   |
| 同 顧問                   | 61年～現在    |
| 熊本野草の会常任講師             | 42年～62年   |
| 同 顧問                   | 62年～現在    |
| 熊本洞穴研究会幹事              | 43年～45年   |
| 同 副会長                  | 45年～51年   |
| 同 会長                   | 52年～54年   |
| 熊本天文研究会理事              | 43年～55年   |
| 同 会長                   | 56年～57年   |
| 熊本県民天文台(熊本天文研究会改メ)台長   | 57年～58年   |
| 同 名誉会長                 | 59年～現在    |
| 熊本野生生物研究会会長            | 平成3年～現在   |



妻の菊子さんと洋ランの手入れ (1990年)

日本野鳥の会熊本県支部長

同 顧問

熊本巨樹の会副会長

熊本在住宮崎県人会会長

ほつとみやざき観光大使

平成3年～11年

11年～現在

8年～現在

15年～現在

17年～現在

## 他博物館等に関する委員

阿蘇火山博物館学術部門専門委員

熊本県少年自然の家調査専門委員

阿蘇野草園造成事業調査員 (熊本県)

荒尾総合文化センター子ども科学館専門委員

副委員長 (荒尾市)

石匠館 (ふるさと歴史資料館改メ) 構想委員会

副会長

昭和55年～57年

56年～57年

56年～58年

59年～平成4年

平成元年～6年

## 研究・報告・著書

昭和39年12月 『ベッコウサンショウウオ卵囊発見について』

(勸日本科学協会 『採集と飼育』 VOL. 26 NO. 12)

44年3月 『人吉・球磨・五木・五家荘地区の爬虫類・両生類・魚類について』

熊本県

47年3月 『内大臣における爬虫類・両生類・魚類について』

矢部町

49年3月 編著 『熊本の動物』

熊本日日新聞社

54年3月 『動物分布調査報告書 (両生類・爬虫類)』

環境庁

55年10月 編著 『熊本の天然記念物』

熊本日日新聞社

56年3月 『動物分布調査報告書 (両生類・爬虫類)』

(勸)日本自然保護協会

57年11月 『菊池渓谷の動物 (爬虫類・両生類)』

熊本洞穴研究会

平成4年8月 『熊本城を科学する (熊本城、謎解きの道)』

熊本大学放送公開講座

5年11月 『泉村の自然 (爬虫類・両生類)』

八代市



孫のはるかちちゃんと囲碁の真剣勝負（2002年正月）

6年8月

『阿蘇（阿蘇の動物）』

熊本大学放送公開講座

7年7月

『くまもと自然大百科（爬虫類・両生類）』

熊本日日新聞社

10年3月

『熊本県の保護上重要な野生動物植物』

熊本県

11年3月

『くまもとの希少な野生動物植物』

熊本県

14年3月

『博物館実習マニュアル（両生類・爬虫類の採集と標本作製）』

全国大学博物館学講座協議会西日本部会

15年3月

『新・宇土市史（爬虫類・両生類）』

宇土市

16年8月

『阿蘇町史（阿蘇町の動物）』

阿蘇町

17年7月

『泉村村誌（爬虫類・両生類）』

泉村

## 海外研修

昭和55年5月

台湾・韓国の公立博物館視察

57年10月

イタリア・オーストリア・ドイツの公立博物館視察

59年8月

中国・桂林の公立博物館視察

平成3年7月

アメリカ・ハワイ島にて皆既日食観測

7年9月

アメリカ・ワシントン州オリンピック国立公園視察

## 免許

昭和28年

中学校教諭一級普通免許（理科）

29年

高等学校教諭二級普通免許（生物）

平成9年

学芸員（自然科学）

平成9年

日本キャンパ協会キャンプリンストラクター

## 表彰・受賞・その他

昭和60年5月

昭和天皇に阿蘇の動物についてご説明

平成6年5月

日本鳥類保護連盟会長・鯨岡兵輔氏より「野生動物の保護」で褒状

11年6月

環境庁長官・真鍋賢二氏より「地域環境保全の功績」で大臣表彰

17年10月

（財）信友社より「信友社賞」受賞

11月

熊本市より「熊本市有功者」表彰

（平成18年7月23日作成）



熊本博物館新館落成式後の記念植樹。中央が西岡さん。  
1978年3月31日

学院高校に奉職されるかたわら、新生博物館の自然科学部門の資料整理にも関与され、28年から博物館職員となられた生粋である。これより博物館の組織と学芸活動を牽引されることとなる。

当時の博物館は熊本城頭彰会から宇土櫓の展示を引き継ぎ、第一館は山崎正董氏の貝と瓦のコレクション及び松本唯一氏の岩石資料が主要なものであった。そこで西岡さんは個人・機関を問わず各所に資料の提供を依頼され展示の充実を図られた。熊本大学から寄託（現在は移管）された動物剥製標本などはこの時のものである。

熊本市立熊本博物館は昭和27年2月に誕生、地方の博物館としては古い設立といえる。その淵源を辿れば昭和2年、熊本城址保存会が宇土櫓を解体修理して博物館施設としたことに由来する。開館にあたり旧第六師団司令部を第一館・宇土櫓を第二館としていた。

西岡鐵夫さんは開館の年に熊本大学理学部を卒業され信愛女

昭和34年、熊本城天守閣再建のため第一館が解体になり、資料と職員は城内の櫓に移転する。35年には天守閣が分館となり、翌年には本館も花畑町の勸業館の2階と3階に再開館した。この博物館は町中の一等地ではあったが施設も悪く、入口もバス停裏の分り難いところで、入館者も年間千人そこそこという有様であった。

そこで西岡さんは館を核にしな

## 熊本博物館

# 「熊本博物館の西岡鐵夫さん・西岡鐵夫さんの熊本博物館」

—— 富田 紘一

各種の館外活動を展開された。それは昆虫・植物・岩石・化石などの採集会、史跡・天然記念物の見学会、学校教育と連携した指導者講習会など多彩であった。その中でも西岡さんの個性を生かした催しが「星を見る会」と「夏季学校」であった。動物学が専門であったのに天文にも造詣が深かったのは、社会教育課長（生涯学習の統括）で一時博物館長も兼務された堀光之助先生から「星座にもロマンがあるよ」というアドバイスによるものだった。

勸業館での再開館以来、念願は自前の館舎での活動であった。このころは宮崎県など地方でも新しい総合博物館が作られ始めた時期でもあった。まさにこの10年は臥薪嘗胆の時代であったが、西岡さんには新しい博物館の構想を十分に練る時間が与えられたともいえる。そしてついに47年7月に博物館建設準備会が発足、10回の審議を経て翌年には新博物館建設の答申が出された。これから副館長として職員を率い、地域に根ざして・人間生活に密着した・多くの情報を集め発信する・市民に開かれた博物館づ

くり邁進される。そしてその思想とリーダーシップが結実した博物館が完成することになるのである。

それから40年近くが経過、いま博物館のリニューアルが検討されている。館内の展示は大きく変わるだろうが、この精神だけは生き続けてほしいものである。



「夏季学校」記念写真 1971・2年頃



内大臣でのニホンカモシカ調査で（2006年3月）



1995年1月熊野研総会で。中央が西岡会長、右は吉倉先生

本会の創設期、会長に就任いただき、20数年もの間、会の進むべき道を示され、多大な業績を残されました。動物、植物、天文、音楽、航空機など何でもござれで、本当に多くの場面で「調査研究と教育に寄与する」という本会の目的に沿う適切なご指導をいただきましたし、会員の自由な研究活動を見守っていた

いただきました。

1991年8月、本会の3週間にも及んだアフリカ調査隊の無事の帰国を心から喜ばれ、空港でお迎えいただいたときの先生方の笑顔、会員の日頃の研究活動や、研究発表を毎回楽しみし、笑顔で聞かれていたご様子は忘れられません。以前、熊本のカモシカ調査の指導をなされた北九州市立自然史・歴史博物館「いのちのたび博物館」の小野勇二館長と、博物館についてのお話に夢中になっておられたこともふと思い出しました。

また、日本キャンプ協会の長年の会員でもあった会長は野外活動が大好きでした。それは森羅万象を知るといふ理念の現れでしたのでしよう。あるとき、キャンプ場での慣例の研究発表会は夜半から雨になり、スクリーンと映写機を炊事場に機材を持ち込んで、明け方までみんなの発表を聞かれていたのを昨日のように思い出します。

2006年3月、内大臣での国の特別天然記念物ニホンカモシカ生息分布調査にも同行され、渓谷での調査に駆け回る調査隊

## 熊本野生生物研究会

# 「西岡鐵夫会長を偲んで」

—— 高添 清

に目を細めていらつしやいました。

最近では、熊本県の各種の審議会の委員や座長を務められ、また、高校現場で環境問題、生物の多様性に関する内容での講演もこなされご活躍中でした。

クリハラリスの対策や外来種の問題にも非常に大きな関心をもたれ、さらには、本会が企画中の「熊本の哺乳類」の「本」作成を楽しみにされていました。

2009年7月屋久島での皆既日食観察では、漆黒の暗闇の中で「これこそ森羅万象の真髄！」とおっしゃられていたことも昨日のように思い出されます。来年、2012年5月21日には「水俣あたりまで出かけて金環食を見よう」と楽しみにしていましたのに残念でたまりません。それにしても、屋久島までの往復の船旅で、ずっと船首で前を見ておられたお姿は私たちの心に焼きついています。

西岡会長は私たちにとってはあまりにも大きな存在でした。

最後になりますが、改めて西岡会長に「有難うございました」と感謝の気持ちを添え、謹んでご冥福をお祈り申し上げたいと思います。

ます。

◎会のプロフィール

1985年から2年間、熊本県教育委員会は環境庁・環境庁・文化庁の依頼を受け、特別天然記念物ニホンカモシカの熊本県内での生息分布調査を行った。

そのときの調査員を中心に、「野生動物の調査研究を行う」とともに、これらを通じて自然に親しみ自然教育の発展に寄与することを目的とする」として1985年12月7日に熊本野生動物研究会として発足した。

(1995年に「熊本野生生物研究会」と名称変更)  
機関紙として「サインポスト」、会誌として「熊本野生生物研究会誌」（現在7号を準備中）を発行しているほか、親睦キャンプ、談話会、日常の会員の研究発表会を毎年開催する。熊本県レッドデータブックの補完調査、クリハラリスなどの特定外来生物問題にも取り組んでいる。現在会員数は82名。



宮崎・三カ所神社で



歴代会長さんと先生



高森・花咲き盛野草園での例会

私が野草の会に入ったのは平成9年でした。イワガサの咲く三角岳での例会のことです。

登山道に淡紫色の小さな花が咲いていました。先生は「スズメノエンドウですね。よく見て下さい、花柄があるでしょう。花柄がないのはカラスノエンドウで、その中間がカスマグサです」と教えていただきました。花柄という言葉さえ知らなかった私は、野草が大好きで花を見に行きたいという思いだけで入会したのです。「花柄のあるなし」のお言葉で、私はあらゆるものをよく見るように目を開くことができたと思います。それからはいつも先生の近くについて、説明を聞き逃さずメモをして、後でノートに清書しました。ノートは数冊にもなり、私の宝ものになりました。例会のバスの中では必ず車中講義がありました。「今日は何の日」から始まって、訪問する場所の歴史や動植物、環境、さらに台風や地震、音楽など、幅広く分かりやすく話していただきました。先生の豊富な知識に驚くばかりでした。帰りのバスでは、その日の復習がありました。復習が終わると恐怖の時間です。それは唱歌が中



## 熊本野草の会

# 「西岡先生と野草の会」

—— 福田 静子

心でしたが、昔々に習った歌の合唱です。1番だけはなんとか歌えても3番、4番となると覚えていません。大きな声でしかられました。さすが先生はよく覚えていらつしやると感心しましたが、奥さまの話では例会の4、5日前になると講義の内容を調べ、歌の練習をされていたそうです。

野草の会では「ひごたい」という記録誌を出していました。私は10年近く、記録係をしましたが、先生から返ってくる校正原稿は真っ赤になるほど朱が入っていました。先生は全部の原稿にきちんと目を通し、不明なところは徹底して調べられていたようです。いかに

記録をしていくことが大切なことを教えていただきました。「ひごたい」も33集で終わりました。野草の会の長い歴史を感じると同時に残念でなりません。

あの霧ヶ峰八島湿原の色鮮やかな数々の花とともに立つておられた先生、屋久島で11人の会員と縄文杉まで登られた時の自信に満ちた姿、野草の会40周年記念祝賀会でうれしそうに笑顔など限りなく思い出します。大きな怒鳴り声でしかられたことも今では懐かしい思い出となつてしまいました。寂しい限りです。

長い間、楽しい野草の会の顧問をしていただきました。感謝の心がとうとうございました。感謝の心をもつて西岡先生のご冥福をお祈り申し上げます。

### ◎会のプロフィール

昭和42年に発足。平成21年に西岡先生の退会と同時に休止していたが、会員の要望により平成23年春に活動を再開。現在の会員は64人。基本的に2カ月に1回の例会。例会は植物観察会を中心に森羅万象が対象。現会長は長生龍子。



1982年5月 県民天文台開所記念講演会で

## 西岡氏の業績

- 1959年（昭和34）10月  
当時の熊本市公会堂で、市民を  
対象に「星を見る会」を始める（月  
1回）
- 1964年（昭和39）11月、  
小・中学校等へ出かけて、移動  
式プラネタリウムを上演（全5  
回）
- 1964年（昭和41）4月  
「星を見る会」の会場を、熊大理

学部屋上に移す

1968年（昭和43）4月

「星を見る会」の会場を、熊大  
薬学部屋上に移す

1968年（昭和43）7月

熊本天文研究会設立に参画、顧  
問に就任、アマチュア天文家の育  
成を支援

1971年（昭和46）6月

「星を見る会」の会場を、熊大  
理学部屋上に移す

1978年（昭和53）3月

博物館にプラネタリウムを導入、  
一般公開を始める

1981年（昭和56）1月

熊本県民天文台建設期成会に参  
画、アマチュア公開天文台の開設  
に助言

1982年（昭和57）5月

天文台開設と同時に熊本県民天  
文台の初代台長に就任

1983年（昭和58）5月

熊本県民天文台の台長を退任、  
名誉台長となる

## エピソード

「星を見る会」の運営を手伝っ  
ていたとはいえ、若い天文愛好家  
達が自ら「公開天文台」を作り、

特定非営利活動法人熊本県民天文台

# 「県民天文台の設立と西岡氏」

—— 艶島 敬昭

自分たちの力だけで一般公開する  
という計画は、当時の財界人や  
文化人に「本当に継続できるの  
か？」という一抹の不安を抱かせ  
たに違いない。その不安を、西岡  
氏は、「開設できたら、1年間は  
私が台長を務めます」という一言  
で吹き払って下さった。お陰で、  
建設資金の募金活動が順調に進  
展、翌年春には県民天文台が完  
成、大勢の天文愛好家が集まって  
毎晴夜の一般公開が始まった。

以来30年間、現在でも県民天  
文台の一般公開が続ぎ、そのユニ  
クな活動は全国に知られている。

◎会のプロフィール

【会長】 艶島敬昭

【会員数】 正会員45名

【活動内容】 元は1968年7  
月に設立されたアマチュアの天  
文同好会。1982年5月に熊  
本県民天文台を開設した。それ  
以来、会員がボランティアで市  
民向けに星空と宇宙の観察指導  
と解説を継続中。1993年  
3月、塚原古墳公園内に移転。  
2003年2月、NPO法人に  
改組。

天文台の一般公開：毎週末（金・

土・日）の夜 出張観望会など  
を年間10数回程度開催

【連絡先など】

〒861-4222

熊本南城南町塚原2016

TEL：0964（28）6060

FAX：0964（26）2027

Eメール：astro@kcao.jp

URL：http://www.kcao.jp/



1993年3月 新しい天文台に集まった会員たち

西岡先生は、野鳥の会の設立当初からの会員で、熊本野鳥の会の黎明期を支えていただきました。そして、1991年1月～1998年12月までの8年間、日本野鳥の会熊本県支部長をしていただきました。

支部長をお願いした当時、西岡先生は、熊本市立熊本博物館の副館長をしておられ多忙を極めておいででした。しかし、野鳥

の会も前支部長の転勤により緊急事態であり、なにがなんでもと、支部長をお願いした次第で

した。ちょうど、私が事務局をお預かりしていた関係で交渉に当たったのですが、なかなか良い返事が頂けず、何度も何度も御自宅まで伺いました。しかし、その都度、毎回毎回雨でした。西岡先生は、自他共に認める雨男

でしたので、さもありなんというところでしょうか。最後は何度目だったか忘れましたが、やはり雨の夜でした。ずぶ濡れになって、玄関に立っていたところやっ

さすがに気の毒に思われたのか、そこまで一所懸命なら、と引き受

けていただいた次第です。何だか、先生を騙したみたいで、若干胸の痛むところもありましたが、最後までその事は黙っていました。その事は、西岡先生の親友でもある今江先生にも伝わっていて、「上手いことやったな」とにっこりと今江先生には、褒められました。

熊本県支部も、発足から22年目を迎え、自立した大人の会へとステップを一段上がる課程にあり、会員数も200人台から500人へと、急速に拡大していた頃でした。支部長をお願いしている間は、なかなかお忙しくて探鳥会等にはお出で頂けなかつたのですが、御自宅の居間には、プロミナーが置いてあり、庭に来る野鳥を見るのが楽しみだつたようです。

当時の支部報をめぐってみました。まず、支部長をお願いした1991年は、第一回「くまもと環境賞」を熊本県支部が団体として受賞しております。翌1992年は、九州ブロック大会が南阿蘇で開催されています。九州各県から100名近い参加があり、成功裏に終わることが出来ま

## 熊本野鳥の会

# 「西岡鐵夫先生の死を悼む」

—— 坂梨 仁彦

した。因みに、今でこそ県下各地で繁殖が見られるのですが、この年には、アオサギの繁殖が県内で初めて確認された年でもあります。1994年には、平成6年度熊本県野鳥保護の集い」におきまして、西岡支部長の長年にわたる鳥獣保護に対する貢献が顕著であるということで、「褒状」を受賞されております。因みに、支部長を退任なさった翌1999年は、環境省から「地域環境保全功労者表彰」を受けておられます。

その他、あつたことといえば枚挙にいとまがないのですが、最も強く印象に残っているのは、会議では時間厳守が当然で、特に終わりの時間には厳しかったです。「会議なんていつまでもだらだらとするもんじゃない」と。また、私たち一人一人を信頼してくださって、「何でも思い切つてやれ。最後は責任は俺が全部とる。」こんな口癖が良く思い出されます。後にも先にも、稀代の名支部長だつたと思います。心よりご冥福をお祈りします。

